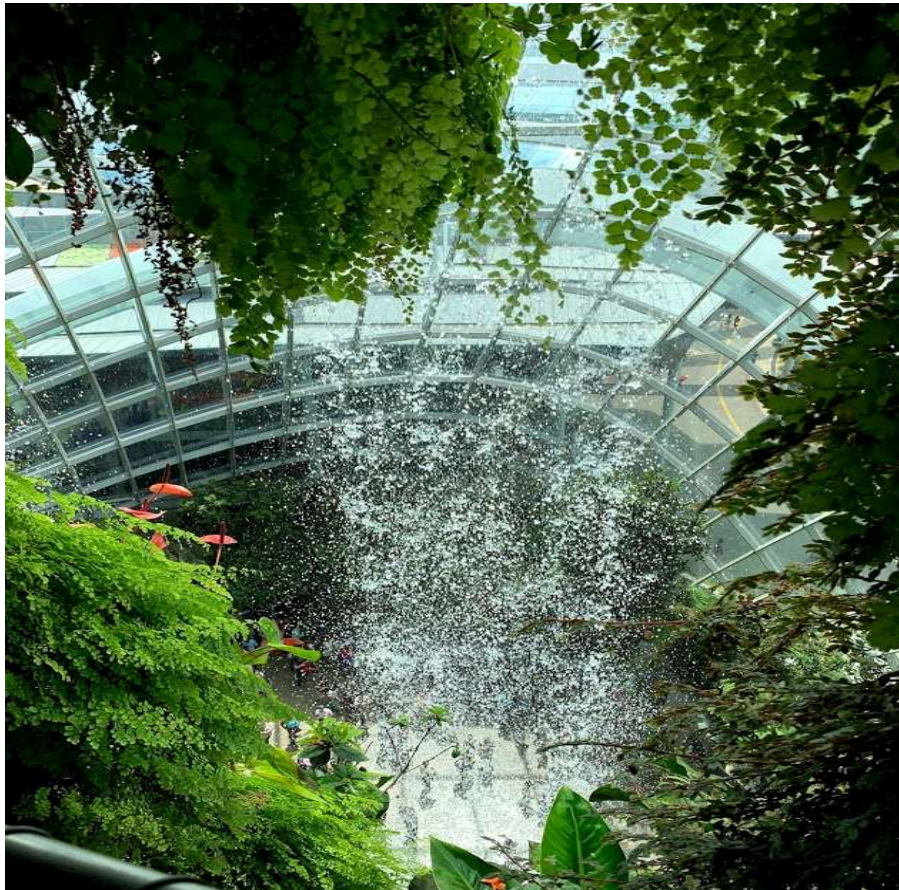


(株)別処電線製造所

2022 年度 環境経営レポート

(対象期間： 2022 年6月1日 ～ 2023 年5月31日)



地球を守り 未来を創る

発行日：2023年6月5日

環境経営方針

(株)別処電線製造所は、特殊銅撚線（無酸素銅、スズメッキ銅、ニッケルメッキ銅）、丸編組線、平編組銅線の製造販売を通して、地球環境、地域社会との調和と共存を念頭に置き、弊社が行うすべての事業活動において、全社一丸となって継続的改善を行い、地球にやさしい会社創りを目指します

1. 次の事項について環境経営目標・経営計画を定め、継続的な改善に努めます

① 二酸化炭素排出量の削減（低炭素社会への対応）

- ・電力（工場、事務所）
- ・自動車燃料（営業車、トラック）

② 廃棄物排出量の削減

③ 水使用量（水資源の保全）

- ・一般水道水

④ 事務用品等のグリーン購入の推進

⑤ 製品不良の削減

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

3. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します。

4. 環境経営方針を全従業員に周知します。

※化学物質使用量の削減については、PRTR物質の使用が無い為設定しておりません。

制定日： 2008年11月1日

改定日： 2020年2月25日

専務取締役 別處 了太郎
環境事務局長 別處 達也



当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、積極的な取り組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

(株)別処電線製造所
専務取締役 別處 了太郎

(2) 所在地

本 社 大阪府茨木市蔵垣内1-2-10 ※
※2020年8月に集約移管

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 兼 担当者 別處 達也 TEL 072-624-6001

(4) 事業内容

特殊銅撚線、編組線の製造および販売
主要製品：無酸素軟銅撚線、無酸素軟銅丸編組線、スズメッキ軟銅撚線、平編組銅線

(5) 事業の規模

製品出荷額 15 億円
主要製品生産量 890 トン

	本社	合計
従業員（人）	25	25
延べ床面積（㎡）	2199	2199

(6) 事業年度 6月1日～5月31日

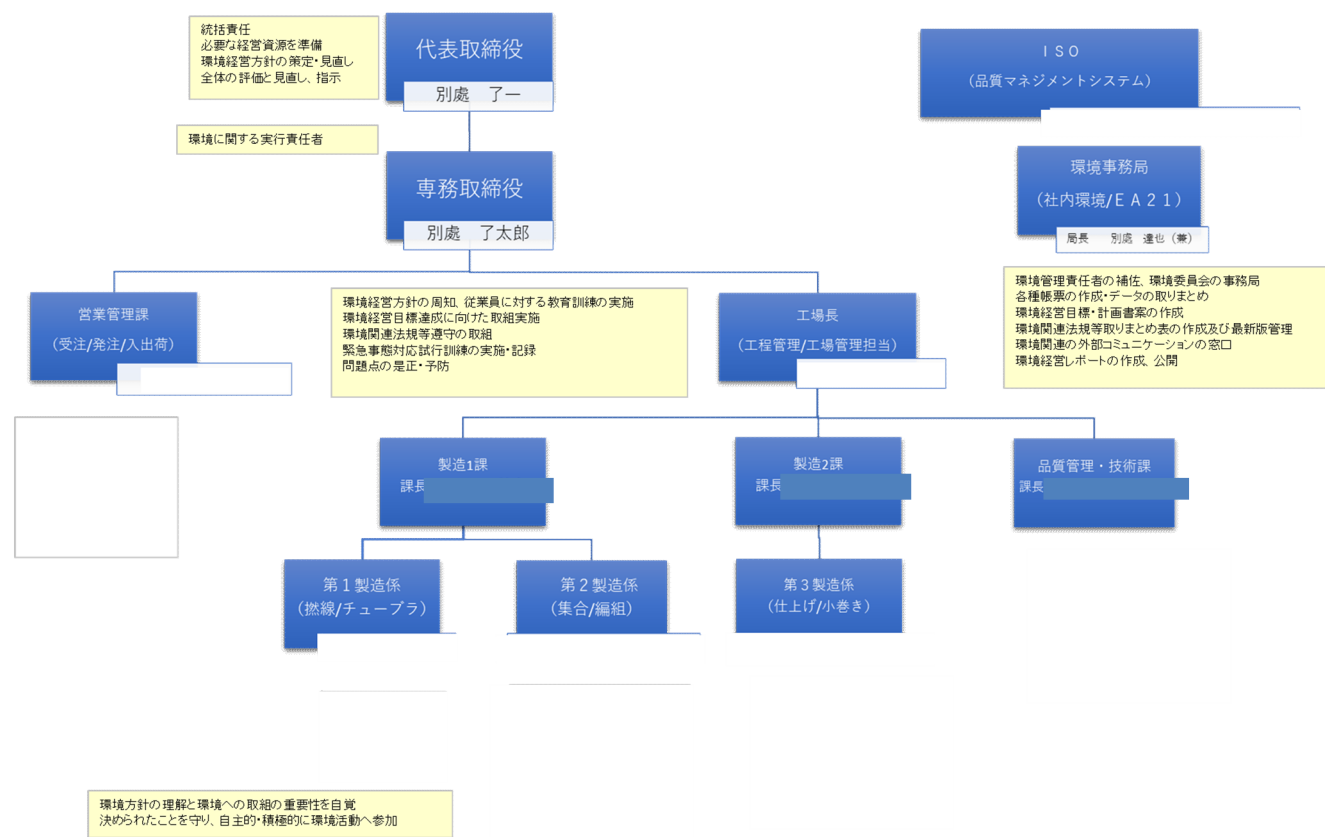
□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： (株)別処電線製造所

対象事業所： 本社

活動： 特殊銅撚線、編組線の製造および販売

環境経営組織および役割・責任・権限



□主な環境負荷の実績 (2022年度)

項 目	単位	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	145,742	144,669	141,896
廃棄物排出量	kg	1,552	2,229	2,139
一般廃棄物排出量	kg	702	673	671
産業廃棄物排出量	kg	850	1,556	1,468
水使用量	m ³	255	377	382

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.349 kg-CO₂/kWh
関西電力2020年度

□環境経営目標及びその実績（2022年度）

年 度 項 目		基準値 (基準度)	2022年		2023年	2024年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減 (本社工場)	kg-CO2 基準年比	162,943 2020年	161,313 99%	128,314 79%	159,684 98%	158,054 97%
原単位 (電気使用量÷粗利益)	kWh/千円 基準年比	1.29 2020年	0.90 70%	0.64 50%	1.14 89%	0.79 88%
自動車燃料による二酸化炭素	kg-CO2 基準年比	13,663 2020年	13,117 96%	13,582 99%	12,980 95%	12,843 94%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	176,606	174,430	141,896	172,664	170,898
一般廃棄物の削減	kg 基準年比	673 2020年	653 97%	671 100%	653 97%	639 95%
廃プラの削減	kg 基準年比	1,556 基準年比	1,510 97%	1,468 94%	1,510 97%	1,478 95%
水道水の削減	m 基準年比	377 2020年	366 97%	382 101%	366 97%	358 95%
製品不良の削減	件 基準年度比	9 2020年	9 97%	8 89%	9 97%	9 95%

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標：○達成 ×未達成
 活動：○よくできた △まあまあできた ×できなかった

取り組み計画	SDGsとの 関連	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素削減			
数値目標	 	○	目標達成。下期以降は生産が落ち込んだ事による電気使用量が減った事が主要因である。電気コストが非常に上がっている為、生産以外での削減に努めていきたい。
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）※工場内は冷房25℃暖房22℃		○	
・不要照明の消灯		○	
・ノー残業デーの実施		○	
・作業改善・業務改善の推進		△	
自動車燃料による二酸化炭素削減			
数値目標	 	×	目標未達成。コロナが明けた事により、営業活動が増えた為、下期は燃料の使用量が増えた。セーフティドライブに努めて、少しでも削減に努めていきたい。
・アイドリングストップ		○	
・効率的なルートで配送		○	
・エリア別営業活動の見直し		○	
・更新時に低燃費車を選択		○	
一般廃棄物の削減			
数値目標	 	×	目標未達成。各種コストが増加傾向であるので、資材の無駄買いの防止なども含めて、削減に努めていきたい。
・分別の徹底		△	
・紙コップ使用の削減		○	
・副資材の管理による無駄買いの防止		○	
・5S活動の推進（部門別活動計画書で運用）		○	
・環境配慮したコピー用紙の購入	△		
廃プラの削減			
数値目標	 	○	目標達成。受注・生産量が減少したことも起因してプラスチックリールの廃棄量が減少した事が要因と考える。
・作業ミスによる廃棄量の削減		○	
・安全で丁寧な作業の励行		○	
水道水の削減			
数値目標		×	水道使用量については自動散水が多くを占める為ほぼ横ばいである。
・自動散水装置の取り付け		○	
・自動水栓取り付け		○	
事務用品のグリーン購入			
・環境マークの付いた物品を積極的に購入		○	コピー用紙についてはFSCマーク製品を採用している。
・詰め替え商品を採用する		○	
製品不良の削減			
①作業前の点検、確認の徹底	 	○	目標達成。下期は不良が少なかった事が要因。製造数量が減っていることもあるが、作業者一人一人の心掛けが実ったものと思われる。次年度も引き続き削減に努めていきたい。
②定期的にスキルチェックを行う		○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属屑、廃プラ、木くず等）	○
NOx・PM法	自動車	○
フロン排出抑制法	業務用空調機	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等はこれまでありませんでした。（関係当局よりの違反等に指摘はありませんでした）

□代表者による全体の評価と見直し・指示

本年度は半導体や各種部材不足による減産などにより、結果として電気使用量などは削減できたが、次年度は2022年度を基に、生産以外の部分での環境負荷の削減に努めていきたい。

環境経営方針	変更なし
環境経営目標・計画	変更なし
実施体制他	変更なし

見直し年度：2023年6月8日 専務取締役 別處 了太郎

□環境活動の紹介

社内緑化の推進



- ・ 今期の改善テーマ～仕損の低減
- ・ スペースの最適化による事故・ミスの低減